

各 位

2023年2月6日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

宮澤賢治の57のことばを読みとき、その自然を見る魅力的な視点を綴った『自然をこんなふうに見てごらん 宮澤賢治のことば』発刊

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、『自然をこんなふうに見てごらん 宮澤賢治のことば』（澤口たまみ：著）を2月13日に発刊します。



宮澤賢治のおはなしには、自然を見る魅力的な視点が詰まっている。

岩手在住で賢治の後輩でもあるエッセイストが、そのことばを読みとき、自然をより楽しく見るための視点を綴る。

木の芽の宝石、春の速さを見る、醜い生きものはいない、風の指を見る、自然界の物語を読む…
自然をこんなふうを感じとってみたいと思わせる、宮澤賢治の57のことばをやさしく丁寧に紐といた一冊です。

「銀河鉄道の夜」も「注文の多い料理店」も、宮澤賢治は、おはなしの多くを自然から拾ってきたといえます。

それらの作品の中に書かれた言葉から、自然を見る視点の妙や魅力をエッセイストの澤口たまみさんが優しくあたたかな目線で綴ります。

読めばきっと、こういうふう自然を感じとってみたい、こんなふう季節を楽しみたい、と思わせる一冊です。

すぎなに露がいつばいに置き
美しくひらめいている。
新鮮な朝のすぎなに。

樋口 大祐



忙しい毎日のなかでも、ふと足を止めてまわりを見る時間を、努めて持つようにはしています。その「ふと」の時間が一日に三十秒あったとして、一月で十五分、一年にしても三時間にしかありません。けれど、その三十秒が人生にたらす感動は、はかり知れないものだと思います。
ふと視線を落とすと足もとに、小さな花が咲いていることもあれば、その花に虫が来ていることもあります。そして朝なら、あたりいじめんの草が、きらきらと光る露のしずくを、いっばいにまとっていることもあるでしょう。
草の葉に光る水滴を、わたしたちはひと口に露と呼びますが、正確には、露と言え「朝露」によるものを指し、主に夏の終わりごろから、冷え込んだ朝に見られます。いっぽう、賢治がこぼれ書いているのは「水孔露水」と言い、夜のあだに植物の体から排出された水分です。
朝早く、お目さまが昇る前に草の葉を見ると、無数の水滴が織りなす静謐な美しさに、目を見張らすにはいられません。お目さまが昇るあたりまでの湿度が上がり始めるのと、たくさんの水滴はふるふるとお小粒みに動き出し、虹色の光を散らながら少しずつ蒸発してゆきます。
ふと足を止めた、その足もとにも、極上の瞬間は存在しています。

それはね、僕もつと小さいとき、
それはもうこんなに小さいときなんだ、野原に出たろう。
すると速くて、誰だか食べた。誰だか食べた、
というものがあつたんだ。それがくらくらうだつたのよ。
僕はかな小さいときだから、ずんずん行つたんだ。
そして林の中へはいってみちがわからなくなつて泣いた。

樋口 大祐



宮澤賢治の言う「ばか」は、決して悪い意味ではなく、ここでは大人観がない、という意味で使われています。先入観のない少年の耳には、フクロウの鳴き声がおひとの言葉に聴こえ、それに誘われるようにして自然に分け入りしました。
幼い賢治もまた、石や虫に誘われるようにして、自然に分け入りしました。その興味は、しだいに花や木、鳥へと広がっていったでしょう。と同時に、小学校のころに担任だった八木英三は、子どもたちにアンデルセンのおはなしを熱心に読み聞かせたそうです。自然を見ていた賢治は、おはなしに登場して行く石や虫や、さまざまな生きものを、こころに思い浮かべることができたはずで、
賢治の想像力は、こうして幼いころから自然と文学の両方に接し、豊かに育まれたものと思われれます。
そんな賢治が、自然にはまだららの言葉になつていないおはなしがなく、えあのだと気づくまでに、それはどの時間からならなかつたのでしょうか。
石や虫が、いま自分の目の前にある。ただそれだけの事実にも、石や虫がここに至るまでに過ぎ去った時間が存在しています。その時間がいかなるものであつたかを想像するのは、そのものおはなしを説くことにはなりません。
これらの姿形に目を凝らし特徴をかみ、図象などを知識を仕入れて、それら

が、あまたある石や虫のなかで、どこに分類されるかを考えます。そうしてこれらの来歴が分かれば、それは、その伝記を読みとるための手がかりです。
火山地の石や虫、かつてはマグマとして地中深くにあり、それが長い時間をかけて冷えて固まったり、火山の噴火で、一気に地上に噴出したりの話でしょうか。賢治は「おはなしは中絶して眠つていたんだよ……」などと、石がおひとの言葉で語り出すのを感じたのではないのでしょうか。
虫も同じです。もし目の前に現れた折れた蛾がいたら、賢治は、どうして翅が折れたのか、虫に食べられそうになつたのか、あるいは……と、その理由を考へてはいるのかもしれないでしょう。そこには必ず、何らかの出来事が存在しています。
賢治は、石や虫が密やかに語り出した身の上話を、ひとりの言葉で書き記すことができました。賢治のなかで、自然と文学は分かちがたく結びついていたはずで、
「山の黎明に関する童話風の構想」という言葉が、賢治は早稲池峠をとお栗子の山に例えて子どもたちに呼びかけます。
おおく、展るイノトのこどもたち／＼グリンやアンデルセンを讀んでしまつたら（中略）この底なしの蒼い空気の湖に立つ／＼巨大な栗子の葉を擧げよう
本を讀んだら、自分の足で野山を歩こうよ、と。

【目次】

プロローグ 宮澤賢治が教え子たちに伝えたこと

パート一 立ち止まってみる そばにある感動を見つける

いのちの宝石・木の芽／光るしずく・朝露／空を見上げる・雲／居場所を知らせる・花の香り／鳥の声を聴く・さえずり／透明なエネルギー・風／夜空を見上げる・月／収穫の記憶・木の実／季節を知らせる・秋の花／空に浮かぶ・雪ふり

パート二 感動するところと向き合って 発見を言葉にする

花がまるで鳥のよう・コブシ／光の酒が湧いている・チューリップ／鳥のブラウン運動・ヒバリ／花は小さな蛾のようだ・シロツメクサ／輝きの色を例えてみると・キンポウゲ／生きものの気持ちになる・アマガエル／想像を膨らませてみる・トウモロコシ／風の指を見る・チモシーグラス／木に自身を映す・カシワ

パート三 新たな発見に出会う 視野を広げて

目を凝らして見る・小さな世界／四季を通じて見る・相手を知る／なぜそう見えるかを考える・水孔溢水／光を感じてみる・透過光線／なかま分けで見る・花／調べてみると面白い・学名／なぜそう聴こえるかを考える・鳥の声／見えないところを想像する・木の根／春の速さを見る・定点観測／体験してみる・雪渡り

パート四 つまらないものはない 先入観を捨ててみる

誰も褒めなかったら・サクラ／小さな虫に励まされる・春の蛾／恐れ過ぎず相手を知る・ドクガ／野山の虫が役に立つ・てぐす／醜い生きものはいない・ヨタカ／一匹ごとに伝記を書く・羽虫／賢さと品格で愛される・カラス／ナチラナトラのひいさま・蠕虫／みんな可愛そうなもの・いのち／オールスターキャスト・多様性

パート五 暮らしとともにある自然 よりよく自然とつき合う

土地に問う・開発／日光を食べものに・野菜／いのちをいただく・肉／たいせつに使う・皮／どうしても吹くもの・台風／領域を保つ・川／炭酸ガスの功罪・大気／自然の二面性・天災／健やかな鳥・町

パート六 自然を見つめるころ 幸せを願う

見えない星を見る・太陽系／過去へ旅する・時間／自然界の物語を読む・自然と文学／生きものの声を聴く・聴耳頭巾／悲しみを癒す・自然の恋人／天上技師 Nature 氏・自然の意匠／子どもたちの居場所・街の緑／緑が教えてくれるもの・ほんとうの幸い／こころの食べもの・おはなし

エピローグ 宮澤賢治が遺した、もうひとつの思い

【商品詳細】

書名： 自然をこんなふうに見てごらん 宮澤賢治のことは

著者： 澤口たまみ

定価： 1900 円＋税

発売日：2023 年 2 月 13 日

仕様： B6 変型版・本文 208 ページ

発売元：株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/products/2822063280.html>

【著者略歴】

澤口たまみ（さわぐち・たまみ）

エッセイスト・絵本作家。1960 年、岩手県盛岡市生まれ。1990 年『虫のつぶやき聞こえたよ』（白水社）で日本エッセイストクラブ賞、2017 年『わたしのこねこ』（絵・あずみ虫、福音館書店）で産経児童出版文化賞美術賞を受賞。主に福音館書店でかがく絵本のテキストを手がける。絵本に『どんぐりころころむし』（絵・たしろちさと、福音館書店）ほか多数。宮澤賢治の後輩として、その作品を読み解くことを続けており、エッセイに『新版 宮澤賢治 愛のうた』（夕書房）などがある。賢治作品をはじめとする文学を音楽家の演奏とともに朗読する活動を行い、CD を自主制作している。岩手県紫波町在住。

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：井澤健輔

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>